路上で生活する子ども（ストリート・チルドレン）の支援プロジェクト

The Philippines / フィリピン

氏名　Wilmar C. Dela Rosa　ウィルマー（23 期）

所属団体　カンルンガン・サ・エルマ・ミニストリー

フィリピンでは、経済的な貧困等を理由に路上で生活するストリート・チルドレンが多く、社会問題のひとつだと考えています。子どもたちへの教育サポート、心のケア等を行い、社会で生きていくための成長をフォローするプロジェクトを実施しました。

所属組織の概要

フィリピンの社会問題のひとつといえるストリート・チルドレン（路上で生活する子どもたち）への支援、教育に取り組んでいます。経済的な貧困のために学校に行けず、教育を受ける機会がないために、大人になってからも安定した仕事に就くことができない子どもが多くいます。教育機会を保障するとともに、社会で生きていくために必要な知識、経験を子どもたちに提供しています。

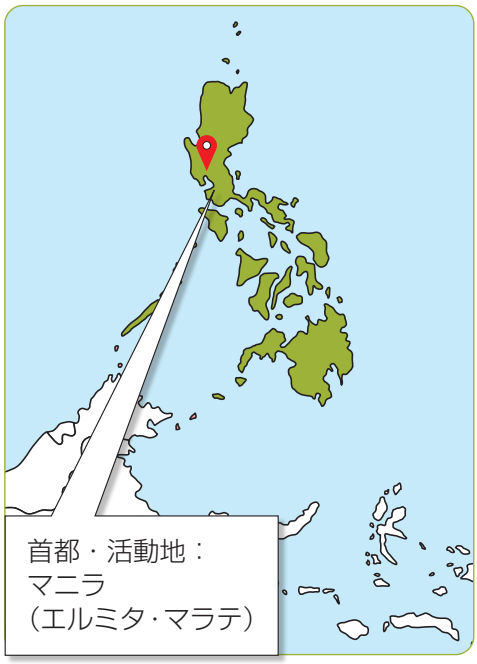
事業の目的

本プロジェクトの目的は、児童保護、児童虐待防止、搾取予防、そして特別な保護を必要とする青少年およびその家族に支援を行い、生活の質を向上させることです。そのために、支援対象であるストリート・チルドレンに対し、次のような目標をもって支援しました。

- 社会参加の機会をつくり、心の成長を支援する
- 虐待や搾取を防止するため、地域ぐるみで子どもと家族に関わる仕組みをつくる
- 傷ついた子どもに対し、心のケアを継続的に行い大人への信頼を取り戻す
- ていねいなフォローを行い、普通教育で学び、理解できる子どもを増やす

活動地域

フィリピンの首都マニラにある、エルミタ（Ermita）およびマラテ（Malate）地域で実施しました。フィリピンには、国全体で 36 万人を超えるストリート・チルドレンがいるといわれています（研究団体：Social Weather Stations 調べ）。首都マニラにも多くのストリート・チルドレンがいますが、生活の拠点を頻繁に移動し支援が届いていない子どもが多数で、正確な人数を把握するのは難しい状況にあります。



対象者

路上で生活をしているストリート・チルドレンを支援の対象としています。また、児童虐待（身体的／心理的／性的）の被害にあった子ども、生活のために働いており学校に通っていない子ども、人身売買や性的搾取の被害にあった子ども、薬物中毒の子ども、非行少年等への支援も行っています。

事業の成果

この事業によって、子どもたち、その保護者、地域社会について、それぞれ次のような成果があったと考えています。

- 「子どもと大人がともに遊ぶ日」をつくったことで、リラックスしたなかで交流ができ、子どもたちの幸福感や大人への信頼感を高めることができた。また、ゲームを通じて、チームワークや社交スキルを高めることができた。
- 子どもと社会科見学に出かけ、さまざまなことを経験したり、感想を言い合うことで楽しく学びあうことができた。
- ていねいな教育とそのフォローにより、普通教育の学校を卒業できる子どもが増えた。
- 子どもの保護者に対し、子育てスキルに関する講義、カウンセリングを実施し、子どもが安心して生活できる基盤を強化することができた。
- 子どもの医療面でのサポート等を通じ、地域の医療機関と協力関係を構築した。ストリート・チルドレンやその保護者を見守る地域の輪をつくることにつながった。

実施内容

本事業は、2023 年 4 月 1 日～ 2024 年 3 月 31 日の期間に「路上教育プログラム」と「オープン・デイ・センター」での活動を通じて実施しました。

路上教育プログラムの実施

路上教育プログラムは、毎週火曜～金曜の４日間、ストリート・チルドレンが多い場所に出向いて実施しました。曜日ごとに実施する場所を決めており、毎週決まった曜日に実施することで、継続的な支援、教育を行っています。

このプログラムは、現場でのカウンセリング、それぞれの子どもに必要な学習サポートの検討とマッチング、学校に通うことのサポート、医療ケアおよび治療の提供などさまざまな支援を組み合わせています。さらに、対象児童の保護者に対してもカウンセリングを行い、子育てスキルに関する講座等への参加を促しています。地域の医療機関、学校等との連携にも力を入れています。

子ども一人ひとりと話をして、ていねいに支援プログラムを考えます

オープン・デイ・センターの運営

オープン・デイ・センターは、毎週月曜～土曜の週６日間、８時～ 17 時まで開放し、「路上教育プログラム」でニーズを把握した子どもたちを受け入れています。センターでは、主にカウンセリング等による心のケア、家庭生活に必要な生活スキルを獲得するための訓練等を行っています。また、路上で生活している子どもたちの衛生管理も重要な役割で、センターに来た子どもたちは、まずはお風呂に入って身体をきれいに洗ったり、おやつを食べて空腹をなくしたりしてから、支援プログラムに参加します。食事や昼寝など、心身の成長に必要な栄養や休息も路上生活のなかでは十分に補えませんから、センターにいる間にその基盤をつくります。

心身のケアを行った後に、個々の学習能力に応じて必要な学習のフォローを行います。社会科見学等の学習には保護者も参加しており、家族全体を支援できるようなプログラムを考えています。

支援対象の子どもとその家族とともに、毎月ミーティングを行っています

今後の展望

子どもとその保護者への支援は、継続していくことが非常に重要だと考えています。特に、子どもの権利と大人の責任、虐待の防止などについては、繰り返し伝えて浸透させていくことが必要です。また、関係機関との連携を密にし、地域のなかで子育て家庭を見守り、子どもを育てていく仕組みをつくっていきたいです。

収支報告

〈収 入〉

項　目	金額（円）	内　訳
全社協からの助成金	332,815	
その他	1,445,019	
合　計	1,777,834	

〈支 出〉

項　目	金額（円）	内　訳
教育教材等購入費	437,608	
食費	721,755	
水道光熱費	349,351	
医薬品購入費	45,795	
交通費	223,325	
合　計	1,777,834	

注）フィリピンペソ（PHP）で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 フィリピンペソ≒ 2.60 円（送金時（2023 年 5 月 19 日）の為替レート）